

平成23年度 シラバス	学年・期間・区分	2年次・後期・A群	
	対象学科・専攻	電気電子工学科	
情報処理 II (Information Processing II)	担当教員	今村 成明 (Imamura, Nariaki)	
	教員室	電気電子工学科棟2階 (Tel. 42-9022)	
	E-Mail	n-imamu ※最後に@kagoshima-ct.ac.jpを付けて下さい。	
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義・演習 / 履修単位 / 1単位		
週あたりの学習時間と回数	授業 (100分) × 15回		
〔本科目の目標〕 本科目では、様々なソフトウェアの開発に利用されているプログラミング言語、C言語を修得する。文法の理解を目標とする。			
〔本科目の位置付け〕 2年次前期の情報処理 I の続きである。前期におけるprintfおよびscanfなどの入出力関数の基礎知識を十分に理解していることを前提とする。本科目は3年次の「情報処理Ⅲ」、情報処理Ⅳ」、5年次の「情報処理Ⅴ」の基礎となる。			
〔学習上の留意点〕 プログラミングは、どれだけ多くのプログラムを作成したかによって、上達のスピードが変化する。そのため、本科目は例題、演習を主体となる。学生諸君には積極的に課題に取り組む姿勢をもってもらいたい。疑問が生じた場合は直ちに質問し、理解を深めることを要望する。			
〔授業の内容〕			
授 業 項 目	時限数	授業項目に対する達成目標	予習の内容
1. 制御構造			
1.1 2つの場合分け	2	if文の書式, if~elseの書式, 処理の流れを理解し, 各種プログラムを作ることができる。	p. 36-p. 43の内容について, 教科書を読んで概要を把握しておく。
1.2 3つ以上の場合分け	2	if~else ifの書式, およびswitch文の書式, 処理の流れを理解し, 各種プログラムを作ることができる。	p. 44-p. 57の内容について, 教科書を読んで概要を把握しておく。
1.3 反復構造	8	do-while文の書式, 処理の流れを理解し, 各種プログラムを作ることができる。 while文の書式, 処理の流れを理解し, 各種プログラムを作ることができる。 for文の書式, 処理の流れ, 規定回数の繰り返しに用いられるということを理解し, 各種プログラムを作ることができる。 インクリメント・デクリメント演算子, 代入演算子を理解できる。 break文の意味と動作を理解し, 合計計算のプログラムを作ることができる。 2重ループの動作を理解し, 各種プログラムを作ることができる。	p. 60-p. 81の内容について, 教科書を読んで概要を把握しておく。
2. フローチャート	2	端子, 入力, 出力, 条件分岐, ループ端の各記号の意味を理解できる。 フローチャートの描き方を理解し, 各種フローチャートを描くことができる。	フローチャートについて, 図書館の文献で概要を把握しておく。
--- 後期中間試験 ---		授業項目1-1.1~2について達成度を確認する。	
3. 配列	8	配列が大量のデータを保存するのに用いられること, 配列の宣言, 配列のサイズについて理解できる。 繰り返しと伴に用いられ, 合計計算のプログラムを作ることができる。	p. 88-p. 111の内容について, 教科書を読んで概要を把握しておく。
4. ユーザー定義関数	6	関数定義, 引数, 関数値, 関数のプロトタイプ宣言の意味を理解し, 各種プログラムを作ることができる。	p. 114-p. 125の内容について, 教科書を読んで概要を把握しておく。
--- 後期期末試験 ---		授業項目1-1.1~4について達成度を確認する。	
試験答案の返却・解説	2	各試験において間違った部分を理解出来る。	

